

【注意】

この問題はマークシート問題と記述式問題とにわかれています。設問部分に「記」とあるものは記述式問題、「マ」とあるものはマークシート問題です。マークシート問題・記述式問題ともにそれぞれ全問が通し番号になっていますが、記述式問題は設問ごとに個別にわたけた解答欄となっています。それぞれ所定の用紙・箇所^①に解答を記してください。

第1問 次の文の傍線部の読みを、送りがなを含め「ひらがな」で書きなさい。(慣用読みは正解としない)

記1 医療者のアドバイスを頑なに拒む患者にも丁寧に対応すべきである。

記2 この会合の参加者は寡黙なひとが多い。

記3 安眠を確保するためカーテンを遮光性のものに取りかえた。

記4 有為転変は世の習いといわれるが、昨今の社会情勢はそれ以上の様相を呈している。

第2問 次の漢字(送りがなを含む)の読みが正しければマーク欄「1」を、誤っていればマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ1 夥しい「おびただしい」

マ2 据える「とらえる」

マ3 膨大「ばくだい」

マ4 有頂天「ゆうちようてん」

第3問 次の文の傍線部の「漢字」表記として正しいものをひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ5 カルシウムをセツシユする。

マ6 先端医療は近代文明のシヨサンである。

マ7 この小児患者はとてもギョウギがいい。

「1」	接取	「2」	拙取	「3」	撰取
「1」	初産	「2」	所産	「3」	諸産
「1」	行議	「2」	行義	「3」	行儀

第4問 次の文の傍線部のカタカナを文意に即して「漢字」で正確に書きなさい。各設問には異なる熟語が入ります。また、同じ解答が複数箇所に書いてある場合はすべて誤りとして扱います。

記5 問題のカクシンに迫る。

記6 国家試験の合格をカクシンしている。

記7 この検査方法はカクシン的である。

第5問 次のそれぞれの語の対義語ないし類義語をあとの語群からひとつ選び、記号で答えなさい。また、対義語の場合はA、類義語の場合はBを、それぞれ区分欄に記しなさい。

記 8 卓越

記 9 手腕

記 10 快諾

記 11 正統

記 12 放出

【語群】

ア. 不穩 イ. 異端 ウ. 潜入 エ. 技量 オ. 低減
カ. 固辞 キ. 合一 ク. 備蓄 ケ. 剛力 コ. 非凡

第6問 次の慣用表現の空欄に入るもつともふさわしい語句をあとの語群からひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ 8 かたずを「 」

〔1〕のむ 〔2〕吐く 〔3〕たらす 〔4〕とる

マ 9 腹の「 」をさぐる

〔1〕芯 〔2〕裏 〔3〕奥 〔4〕内

第7問 次の語句の意味としてもつともふさわしいものをあとの選択肢からひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ 10 襟を正す

〔1〕衛生を保つこと 〔2〕外見を統一すること

〔3〕ルールを守ること 〔4〕気持ちを引き締めること

マ 11 ひざを交える

〔1〕相手と張り合うこと 〔2〕意見が対立すること

〔3〕親しく語り合うこと 〔4〕昔からの友に会うこと

第8問 慣用表現を用いた次の文の空欄には、それぞれ身体の部位をあらわす漢字一文字が入ります。文脈から判断してもつともふさわしい「漢字」一文字を正確に記しなさい。同じ漢字を複数回使用することは認めません。

記 13 「 」をおおうばかりの惨状に背筋が凍る思いをした。

記 14 いつまでも「 」をこまねいてばかりはいられない。

記 15 「 」を疑うような話に衝撃を受けた。

第9問 次の傍線部の現代かなづかいが正しければマーク欄「1」を、誤っていたらマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ12 ちりじり（散り散り）になる

マ13 ふくぢ（服地）を染める

マ14 計画が行きずまる【注】漢字表記略

マ15 とおか（十日）にわたる入院

第10問 論述には、常に論理的に正しいものと、常に正しいとはかぎらないものがありま
す。次の文章が論理的に常に正しければマーク欄「1」を、常に正しいとはかぎらなけれ
ばマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

【注】「ゆえに」の前の二つの文の叙述内容は常に正しいものであると仮定します。また、
叙述の内容が実社会の現実と合っているとはかぎりません。

マ16 病棟実習には1年生の生徒は参加できない。生徒Aは病棟実習に参加できる。ゆえ
に生徒Aは1年生以外の生徒である。

マ17 この高齢者施設の口腔ケアはいつも水曜日におこなわれる。今日は水曜日である。
ゆえに今日、この高齢者施設では口腔ケアがおこなわれる。

第11問 次の文と論理的に同じ内容となる文を選択肢からひとつ選び、該当するマーク欄を
チェックしなさい。

【注】叙述の内容が社会の実態と合っているかどうかを問うものではありません。

マ18 この病院では、すべての診療科に女性の医師が勤務している。

〔1〕女性の医師が勤務している診療科であれば、それはこの病院の診療科である。

〔2〕この病院の診療科以外はすべて、女性の医師が勤務していない。

〔3〕女性の医師が勤務していない診療科であれば、それはこの病院の診療科ではない。

第12問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

ほとんどすべての病気のばあい、皮膚の機能は、多かれ少なかれ、不調をきたしている。
しかも多くの重篤な疾患のばあい、排泄はほとんど全面的に皮膚を通して行われる。これは
とくに、子供のばあいにいちじるしい。ところが、皮膚からの排泄物は、身体を洗うか衣類
に吸着させるかして取り除かないかぎり、付着したままそこに留まるのである。看護師は常
にこの事実を念頭に置いておくこと。なぜなら、病人の身体を不潔なままに放置したり、あ
るいは病人に汗やその他の排泄物が浸み込んだ衣類を着せたままにしておくことは、健康を
もたらす自然の過程を妨げて患者に害を加えることになるからである。それはちようど、身

体にゆつくりと作用する毒物を、病人の口から飲ませているのと同じ結果となる。皮膚から与えられた毒物は、口から与えられる毒物と同様、確実にその作用を現わす。ただその作用が表に出てくるまでに時間がかかるというだけの違いである。

皮膚をていねいに洗ってもらい、すっかり拭ってもらったあとの病人が、解放感と安らぎとに満たされている様子は、病床ではよく見かける日常の光景である。しかし、そのとき病人にもたらされたものは、たんなる解放感や安らぎだけではない、ということ忘れてはならない。事実、その解放感や安らぎは、生命力を圧迫していた何ものかが取り除かれて、生命力が解放された、まさにその徴候のひとつなのである。したがって看護師は、患者の身体の清潔に関する世話を、どうせちよっと気分が良くなるだけのことだから、時間がずれても同じこと、などという口実のもとに、何かの後まわしにするようなことを絶対にしないことである。

管理の行き届いている病院においては、この種の世話は必ず実施することになっているし、またきちんと実施されている。しかし在宅の病人においては、一般にあまりきちんとは実施されていない。

病人の肺と皮膚から排出される病的な悪臭を除去するためには、ひたすら換気しつづけることよって病人のまわりの空気を絶えず新しくしておかなければならないが、それとまったく同様に、皮膚に分布する小さな孔も、その排泄物よって塞がれてしまわないよう、絶えず排泄物を除去しておかなければならない。換気も皮膚の清潔も、その目的はほとんど同一である。——すなわち、身体から有害物質をできるだけすみやかに取り除くことなのである。

皮膚をスポンジ拭きしたり、洗ったり、清拭したりするばあいは常に、一度にあまり広い皮膚面を露出しないようにして、なるべく発汗を抑えるように注意すること。こうしたばあいの発汗は、別のかたちで新たな害をもたらすことになりかねないからである。

フロレンス・ナイチンゲール『看護覚え書（改訳第7版）』湯楨ます ほか訳（現代社）

マ19 24 次の各文が本文の内容と合っていればマーク欄「1」を、合っていない、もしくは本文に該当する記述がない場合はマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ19 病院であれ在宅であれ、患者の清潔を保つ世話はきちんと実施されている。

マ20 皮膚からの排泄物を拭わずそのままにしておくことは、病人に毒物を飲ませているのと同様の結果を招く。

マ21 きちんと清拭された患者の感じる解放感は、換気もたらす解放感と同じくらい大きい。

マ22 口から与えられる毒物は、皮膚からの毒物よりも作用がはやくあらわれる。

マ23 皮膚の清潔のために洗浄や清拭をするばあいは、できるだけ広い範囲にわたっておこなうことが望ましい。

マ 24 重篤な疾患をかかえる患者の排泄は、皮膚よりも肺を通じておこなわれる割合のほ
うが高い。

第13問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

家族のケアを担うなかで、学校生活や毎日が楽しく感じられなくなり、健康面でも不安が生じてきた場合、皆さんならどうするだろうか。この事態を何とかしなければと、友人に相談したり、同僚、上司に話して仕事を調整する、または使える制度やサービスを探して相談窓口に向くかもしれない。誰かに状況を話してストレスを発散したり、助けを求めたりするのではないだろうか。

それでは、高校生であるヤングケアラーたちは自分がケアをしていることを誰かに話すことがあるのだろうか。

ケアをしていると回答した者に、家族以外の人に話したことがあるか否かを尋ねた。その結果、「ある」と回答した者と「ない」と回答した者が半々の結果となった。

「 a 」ある」と回答した者には、話したことがある相手を選択肢から選んでもらった。その結果、「友人」が最も多く、他の選択肢と比べても群を抜いていた。高校生としては身近な友人に話す機会が多いことがわかる。次いで多い回答は「学校の先生」であり、やはり学校の先生は子どもたちにとって、家族以外の最も身近な「ア」であることがうかがえる。

ここで注目したい点が「医療、介護、福祉の専門職」である。今回の調査結果では「医療、介護、福祉の専門職」に話した者は11名（4・0％）と非常に少なかった。身近な存在である友人や先生に話すことができれば、気分転換やストレス解消につながるかもしれない。また有効なアドバイス、情報を得ることもできるであろう。

しかしながら、彼らが置かれている状況を「イ」に改善し、ケア役割を軽減もしくは解消するためには、医療、介護、福祉等の専門職による支援や関連する制度・サービスの利用が欠かせない。そこでこれらの専門職とヤングケアラーがつながり、彼らのニーズに合わせた支援がされることが望ましいが、今回の調査では、ほとんどのヤングケアラーが① 様子がうかがえる結果となった。

「 b 」本調査では、介護・福祉サービスの利用状況についても尋ねており、半数近くが利用していると回答し、利用していないと回答した者が約3割、「わからない」と回答している者が約2割であった。この結果をみると、ヤングケアラーたちの家庭にまったくサービスが入っていないわけではないことがわかる。

確かに元ヤングケアラーとの話の中では、「ケアマネジャーが定期的に来ていたが」いつも『主介護者』である母親と話していた」（精神疾患を有している）母親は通院していたみたいだけど、（自分は）先生や看護師さんとは会ったことも、話したこともない」ということをよく聞く。

専門職は、患者やサービス利用者（ケアが必要な本人）へのアプローチ、また「主介護者」と位置付けられた家族とのかかわりを持つが、その子ども、孫にまで注意が向くことはあま

り多くはないのだろう。一方で、ケアマネジャーが常にヤングケアラーである自分を気遣ってくれて、それで学校を辞めずにすんだという話もあり、専門職による支援が有効であることがうかがえる。

読者の中で、医療、介護、福祉等の専門職の方がいたら、意識してヤングケアラー（と思われる子ども）と直接話をする機会を設けてみてほしい。そして家族内でのどのような役割を担っているか、それによって、健康、学校、生活に影響が出ていないか、尋ねてみてほしい。私が何よりも注意すべきと思ったことは、半数が誰にも話していないという点だ。なお、国の調査でも、ケア（世話）について相談したことがない者が5割から7割近いという結果であった。その理由として「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も多く挙げられていた。「悩み」を「相談」することは確かにハードルが高く、ヤングケアラーの中には悩みを感じていない（自覚していない）場合も少なくない。話していない子どもが多く存在することはまだ理解できる。

しかし、本調査ではそこまでのことを聞いているのではない。単に「ケアをしていること」を話したことがあるか否かを聞いているのみである。それでも、半数が誰にも話していないという結果であった。その理由はさまざまであろう。② と思う者もいれば、家庭内のこと、しかも障がいや疾病といった家族のプライバシーにかかわることを話すのは躊躇するケースもあるだろう。

どのような理由だとしても、また話すか否かは本人の自由だとしても、ヤングケアラーにとってケアを要する家族の状態や自分が担っているケアに関する事柄は、自分の日常そのものであり、大きな関心事、日常的課題になつていいると考えられる。

それにもかかわらず、ケアをしているという事実すら「「ウ」」話さない、話すことができないということは、友人からの誘いを断るとき、遅刻、宿題忘れの理由を問われたとき、どのように答えているのだろうか。大なり小なり、彼らが③ に置かれていることを表していると言えよう。

大人の家族介護者でいえば、高齢者^Aギヤクタイ、介護殺人、心中にまで追い込まれる背景のひとつに家族介護者の孤立があることが指摘されている。孤立状態でのケアにはさまざまな^Bヘイガイがある。負担の増大、発見、支援の遅れを招く。家族と一緒にすれば、子どもであれば、大丈夫という話にはならない。ヤングケアラーたちが自分のケアや家族について安心して話せる、聞いてもらえる環境が日常にあることが望まれる。

ヤングケアラーの半数が誰にも話さずにいるという現状、そして友人には話していても、教員や専門職といった頼れる大人には話していない者が多いという事実は、今後の課題として認識する必要がある。

このような話をする、私が親しくしている元ヤングケアラーに必ず注意を受ける。「話をできたらいいい、というものではないんです。話したときの相手の反応によって、かえって傷ついたり、嫌な思いをすることがあるんです」

「c」のように言った元ヤングケアラーもいた。

「戦略的に『話さない』という選択をとることがある。話さない方が自分のためになることがあるから」

「d」、勉強や進路、部活、恋愛等に関する話をしていても、抱えている背景、「エ」しなければならぬ事項が、他のクラスメイトたちとは少々異なってくる。そこには社会から白い目でみられるかもしれない、どんな反応が返ってくるかわからない、④も含まれている。実際に話したことで自分にとって不利に働いた、人が離れていったという経験を持つヤングケアラーたちもいる。

障がいや疾病に対する差別、偏見が強く、「家族が家族のケアをするのは当たり前」、「子どもがケアをしているはずがない」等、家族ケアに対する理解が不十分な社会では、話すことに大変なリスクが伴うことを、c彼らの中には「ステイグマ(烙印)」と向き合って生きている者がいることを、私たちは認識する必要がある。

必要とされているのは、彼らが置かれている状況とその「オ」を適切かつ十分に理解した人(教員、専門職のみならず、クラスメイト、地域の人等も含まれる)が日常的に周りにいることである。そしてそのような理解者や同じ様な状況にある仲間と出会い、安心して話せる場、機会が、地域や学校など、彼らの身近なところに用意されていることである。

濱島淑恵『子ども介護者 ヤングケアラーの現実と社会の壁』(角川新書 K-368)より(二部省略)

記16 傍線部Aの「ギャクタイ」を「漢字」で正確に書きなさい。

記17 傍線部Bの「ヘイガイ」を「漢字」で正確に書きなさい。

マ25 空欄①に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- [1] 専門職のニーズに応えようとしていない
- [2] 医療、介護、福祉等の専門家を敬遠している
- [3] 専門職と接点すら持っていない
- [4] 家族と相談もしていない

マ26 空欄②に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- [1] ケアよりもっと関心のあることについて話したい
- [2] SNSでこまめに発信しているから不満はない
- [3] 家族をケアすることは当たり前で話すまでもない
- [4] 親戚が手伝ってくれるから特に話す理由もない

マ27 空欄 ㊸ に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄を
チェックしなさい。

- [1] 不親切な状態、非友好的な状態
- [2] 不利な状態、無益な状態
- [3] 制限された状態、限定された状態
- [4] 孤立した状態、抑圧された状態

マ28 空欄 ㊹ に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄を
チェックしなさい。

- [1] そんな現実離れた妄想を含んだ経験
- [2] そんな底知れない不安を伴うような事柄
- [3] そんな個人的で主観的な思い
- [4] そんな他人事のような気持ち

マ29 文中の「ア」から「オ」に入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいもの
を以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- | | | | | |
|------------|---------|---------|--------|--------|
| [1] 「ア」 他人 | 「イ」 総合的 | 「ウ」 絶対に | 「エ」 検討 | 「オ」 背景 |
| [2] 「ア」 大人 | 「イ」 根本的 | 「ウ」 誰にも | 「エ」 勘案 | 「オ」 心情 |
| [3] 「ア」 人間 | 「イ」 相対的 | 「ウ」 一言も | 「エ」 推察 | 「オ」 行為 |
| [4] 「ア」 相手 | 「イ」 抜本的 | 「ウ」 決して | 「エ」 懸念 | 「オ」 表現 |
| [5] 「ア」 存在 | 「イ」 徹底的 | 「ウ」 少しも | 「エ」 相談 | 「オ」 態度 |

マ30 ㊺ 文中の「a」から「d」に入る最もふさわしいものを以下からそれぞれ
ひとつずつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。同じ語の重複使用は認めません。
なお、使用しないものがひとつあります。

- マ30 「 a 」
- マ31 「 b 」
- マ32 「 c 」
- マ33 「 d 」

- [1] さらに
- [2] すなわち
- [3] なお
- [4] しかし
- [5] また

記 18

傍線部Cの「ステイグマ（烙印）^{らくいん}」とは「侮辱」や「汚名」を意味しますが、ヤングケアラーの中にはそうしたものと「向き合って生きている者がいる」とはどういうことか、具体的に説明しなさい。解答は八〇文字以上―一〇〇文字以下の一文で記すこと。句読点も一字分とします。冒頭の一字下げは不要です。